

# 千代田区(特別区)の職員採用, 公務の魅力, 人材育成等について

## 神河 洋行

千代田区政策経営部人事課長の神河と申します。本日は専修大学さま, そして聴講者の皆さまの貴重なお時間を頂き, こちらのテーマ, 「千代田区特別区の職員採用, 公務の魅力, 人材育成等」について, お話をさせていただきます。

本日お話を聞いていただいている方は, 学生の方が多く伺っております。これから就職活動を迎える方が多いのでしょうか。であるならば, 今後, 就職活動される方々に, 公務員という仕事について知ってもらうとともに, ご自身の今後の進路を考えていただくような機会にできればと考えております。

## 自己紹介等

まず, 私の自己紹介として, 略歴についてお話をさせていただきます。平成7年にこちら千代田区に入庁しましたので, もう30年ほどになります。まず, 最初に配属されました教育委員会事務局生涯学習振興課では区民文化祭, 成人の日のつどい等, 区民を対象とした文化事業を担当するセクションに3年, 2カ所目, 地域振興部地域振興課では, 区民を対象とする保養施設の管理運営を5年, 3カ所目, まちづくり推進部都市計画課では, 都市計画マスタープランの進捗管理, 当時区内で多く建てられていたワンルームマンションの規制, 駅前開発の進む秋葉原地域のまちづくり等を5年, その後, 係長に昇任しまして, 政策経営部総務課では情報公開・個人情報保護制度, 行政不服審査(審査請求)・争訟, マイナンバー制度への対応等を11年ほど担当しました。このあたりにつきましては, 後ほどもう少し詳しくお話しさせていただきます。

その後, 平成31年4月, 管理職に昇任しまして, 最初が東京2020オリンピック・パラリンピックの準備担当課長を2年。区内に日本武道館, 東京国際フォーラムといった競技会場があったことや, 区内にマラソンコースもありましたので, 東京都や東京2020大会組織委員会等との調整であったり, 区民に対しましては, 東京2020を盛り上

げるための気運醸成事業、例えば、オリパラのメダリストを招いて一緒にスポーツイベントを開催したり、商店街や企業等の協力を得て、街路灯に東京2020のフラッグ等を設置する等してまちを装飾したり、聖火リレー等のイベント企画等を時間に追われながら進めていました。コロナ禍となり、東京2020大会は1年延期されることになりましたが、その間、コロナ禍で先の見えない生活で不安いっぱいの方々の区民の方々に、千代田区では12万円を給付するという特別支援給付金という独自事業を行いまして、その給付金担当課長も兼務で任せていただきました。こちらは大変な仕事だったのですが、職員のがんばりに支えられて遅滞なく進めることができ、多くの区民の方から「千代田区に住んでいてよかった」、「私たちのために頑張ってくれている職員の方に感謝」、事業を営む方々からは「コロナ対策のために大切に使います」、そういったお声をたくさん頂きました。がんばった甲斐があったなと本当に実感できた機会の一つとなりました。そういった対応を行う中、令和3年4月、東京2020大会を迎える前に異動となりましたが、その後は、高齢者福祉、介護保険の担当を1年ほど、令和4年度から現在の人事課長を担当させていただいております。職員の採用や昇任等をはじめ人材育成に至るまで、また職員の健康管理であるとか、職員住宅の管理等の福利厚生事業などを担当しております。ということで、私の経歴だけを見ていただいたとしても、行政の守備範囲の広さを感じていただけるのではないかと考えております。私は1カ所当たりの年数が比較的長いほうなので、他の同じ年代の職員は私ぐらいの年齢だと、もう2～3カ所ほど多く異動を経験しているのではないかと思います。本日は、これから就職活動を迎える専修大学の学生の皆さまに公務というものの魅力、それから就職先としての公務員の魅力を少しでもお伝えできたらと考えております。

本日は、せっかくですので、私が勤務し、皆さまの神保町キャンパスが立地する千代田区について、まず知っていただこうと。2点目、公務のやりがいについて私なりに思うことを3つの視点で説明をさせていただき、それに加えて、実際に区で勤務する職員の生の声を皆さんにご紹介させていただきたいと考えております。3点目、千代田区における人材育成についてのお話を、4点目、千代田区特別区の職員採用試験のお話をさせていただこうと考えております。

# 1 千代田区について

## (1) 千代田区の地勢等

千代田区の面積は、特別区23区の中で5番目に小さい11.66平方キロ、人口は最も少ない6万8,000人ほどでございまして、皆さん、ご存じかと思いますが、23区全体の中央辺りに位置しております。人口は、先ほど申し上げたとおり7万人弱ですが、昼間は皆さまのような学生や区内に通勤されるビジネスマン、観光客等でおよそ100万人の方が区内にいらっしゃるということです。

千代田区は、皇居を取り囲むようにして、まちが形成されております。大まかにですが、北側、そして西側は中央総武線に沿って、また東側は山手・京浜東北線、また南側は赤坂見附、永田町駅、新橋ぐらいまでを囲むエリア、東西南北、およそ3キロから4キロほどですので、端から端まで約1時間ほど歩いてしまうという狭い面積ながらも、JR、地下鉄を中心とした交通機関が相当に発達しておりまして、区内はどの方向に歩いても、6分歩けば駅に当たるともいわれています。

また、電車、地下鉄、都バスなどもございますが、千代田区内では、株式会社NTTドコモと連携してコミュニティーサイクル事業なども実施しております。30分165円で借りられますので、地下鉄への乗り降りなどを考えると、電車よりも便利で場合によっては安価に利用できる交通手段にもなり得ます。サイクルポートは区内でも90カ所ほどあるようですので、専大の学生の皆さまも使うときっと便利だと思います。特に春や秋に皇居の周りを自転車で回っていただくと快適だと思います。広域連携で近隣区への乗り入れなどもできるようなので、ぜひポート等の研究をして活用してもらえたらと思います。

もう少し千代田区について、お話させていただきますが、ご存じだと思いますが、千代田区の中には皇居がございまして。旧江戸城ですが、桜の時期、紅葉の時期と、観光の人気スポットとして国内外の方々が訪れる、愛される場所となっております。区の面積のうち約12%は皇居が占めておりまして、皇居東御苑は今、一般公開されておりますので入場できますし、千鳥ヶ淵には区営のボート場がありますので、ぜひ足を運んでもらいたいスポットの一つです。区内には国会議事堂をはじめ、首相官邸、内閣府と他の中央省庁など、日本の首都機能が集積しております。日本武道館、東京国際フォーラムは東京2020オリンピック・パラリンピックでも競技会場となりまして、



資料：「千代田区都市計画マスタープラン」より

柔道、空手、パワーリフティング等の競技が実施されました。また、日々、人気アーティストのコンサート等のイベントも多く行われております。

東京の玄関口である東京駅丸の内口、重要文化財に指定された赤レンガ造りの東京駅丸の内駅舎をはじめ、丸の内や大手町のオフィス街、皇居へと続く大通りは多くの通勤者や観光客で日にぎわっております。法律案などの審議が行われる国会議事堂、そして、皆さんが卒業論文等で利用されましょくか、国会図書館なども区内に立地しています。本の街である神保町、電気街・サブカルチャーの街とされる秋葉原も千代田区の特徴あるまちの一つです。

他にも、番町・麴町地区は閑静な住宅地として、神保町、お茶の水辺りは学生街、スポーツ用品店街、また、御茶ノ水駅の北側は大きな大学病院などの医療機関の集積地、大手町・丸の内・有楽町地区は国際的なビジネス交流ゾーン、有楽町辺りは劇場や映画館等が集まっており、文化・芸術街として知られております。

千代田区は面積は大きくはありませんが、その限られた中に特徴あるまちが集積し

## 都心の中で引き継がれる伝統



神田祭



山王祭



みたままつり(靖国神社)▶

ておりまして、区では、その地域地域の特性を大切にしまちづくりを行っております。

昨年は4年ぶりに日本三大祭りの一つと数えられる神田祭が開催されました。普段はオフィス街や観光地の顔を見せておりますが、この神田祭の日には、神田、大手町、丸の内、お隣の中央区の日本橋などから100以上のみこしと多くの担ぎ手が集まり、広い秋葉原の通りが人で埋め尽くされるほどの盛り上がりとなりました。また、三大祭りの一つである山王祭もごございます。夏には、靖国神社で毎年開催されているみたままつりもあります。大都市の中にあっても、地域の方々は地域コミュニティーを守り、このような伝統的な行事を大切に楽しみにされています。

また、江戸の文化は明治、大正、昭和へと引き継がれてまいりました。積み重ねられた歴史が表れている場所、区内にはまだまだあります。神田須田町の辺りには、江戸、明治の時代から文人も訪れ、長く愛され続けている趣と風情ある店が数多く残っておりますし、有楽町には昭和の香りがするガード下街、右下は、神保町等にも歴史や雰囲気を感じられる喫茶店等が所々にごございます。こういったものも千代田区の魅力の一つと考えています。

およそその辺りまでが千代田区かということにつきましては、大まかにご理解いただけたと思いますので、これからの時間は千代田区で今どのような施策について行っているのかということについて、説明をさせていただきます。

### (2) 千代田区で実施している施策について

千代田区には、先ほど申し上げたとおり、皇居を中心に、官庁街、オフィス街、商店街、住宅街など、個性豊かなまちがごございます。そこで活動する人々が、お祭りや街

千代田区  
第4次基本構想



伝統と未来が調和し、  
躍進するまち  
～彩りあふれる、希望の都心～

千代田区

### 千代田区第4次基本構想（令和5年3月策定）

- 千代田区の将来像や分野別のあるべき姿を描き、その実現に向けて進むべき方向性を示すもの
- 区の行政計画の最上位に位置付けられる理念であるとともに、行政運営の基本となる指針
- 区民や団体、企業など、千代田区に関わるすべての人々と共有し、一体となって実現するための指針としての役割を持つもの

めざすべき将来像

**伝統と未来が調和し、躍進するまち**  
～彩りあふれる、希望の都心～

並みなどに象徴される文化、伝統を受け継いでこられています。千代田区で育まれてきた伝統が長い歴史の中で、それぞれの歴史における人々が新しい文化や価値観を取り入れ発展してきており、その都度、千代田区のまちの魅力を高めているということでございます。

昨年の3月、「千代田区第4次基本構想」を策定し、今後も、社会の変化が激しい時代の中で、先人が築いてきた伝統を大切にしながら、新しい時代における文化や価値観、そういったものとの調和を図り、未来に向け力強く躍進し続けたいといった思いを込めて、人やまちとのつながりを大切に、住み続けられるまちを目指しています。この基本構想は、千代田区の将来像や分野別のあるべき姿を描き、その実現に向けての進むべき方針を示しています。その中で、目指すべき将来像を、『伝統と未来が調和し、躍進するまち～彩りあふれる、希望の都心～』とし、今、そういったまちの実現に向けて、さまざまな事業を実施しております。

いくつか事業をご紹介させていただきたいと思います。まず、「ウォークブルなまちづくりの推進」でございます。世界の多くの都市では、沿道の街並みと道路を一体的に使って、道路空間を車中心とした空間から人中心のものへと再構築し、居心地の良い空間づくりを進めているようです。皆さんは、丸の内仲通りに行ったことはありますか。通りにベンチ等を設置して、人が休憩できたりとか、オブジェを楽しんだり、沿道のカフェでお茶を楽しんだりできるようになっています。他の所でも、道路空間や建物の公開空地などを活用して、快適な歩行環境を確保したり、滞留空間を創出するなどして、QOL(生活の質)を向上させ、利用になる方が地域への愛着、つながりの

強化を図っているところです。区では、こういったウォークアブルなまちづくりのモデル地区を募集しながら、実証実験を行っております。

次に、「千代田区DX戦略」です。誰もが取り残されることなくデジタルの恩恵を受けることができるように、区民の多様な幸せの実現と、私たち、職員の生産性の向上に向けてDX（デジタル・トランスフォーメーション）を推進しています。生活に関わる手続きを自宅のスマートフォンから行うことができるよう、千代田区ポータルサイトを立ち上げ、昨年8月からサービス開始しています。区民の皆さまが安全、安心に暮らせるように、区の特性を踏まえ、さまざまな分野で先駆的、また独自の施策を展開しているというところでございます。

そういった取り組みの中で、全ての区民がデジタルサービスを利用できるよう、区内企業と連携するなどして、スマホ教室、相談会等も開催しております。このDXの推進につきましては全庁で横断的な取り組みを行っており、入庁から数年程度の若い職員もこういった取り組みに関わって、全庁的な課題の検討等を行っております。

子育て施策の充実も図っておりますが、これは区がこれまで長く特に力を入れて取り組んできたものの一つで、国の児童手当の対象となっていない妊娠時、それから高校生相当までの子どもを養育する子育て世代を対象に、所得制限のない次世代育成手当というものを支給しています。他の自治体に先駆けて実施したのが千代田区ですが、千代田区では、早期に保育園の待機児童ゼロを実現するなど、子育てしやすい環境の整備、それから子育て支援のための施策を展開しています。子育てだけではありません。高齢社会に向けた対応ということで、高齢者向けの施策も充実しております。千代田区では、区内高齢者やそのご家族の方からのさまざまな相談を24時間365日体制で受け付け、対応する相談センターを設置しています。区内2カ所の地域包括支援センター、千代田区では高齢者あんしんセンターと言っていますが、これらと連携して、介護保険や介護予防事業を必要とする高齢者を介護保険や区が行う各種サービスにつなげたり、地域や各種団体等を見守りを実施したり等、在宅支援のサービスを充実させています。平成27年に開設されたかがやきプラザは、九段坂病院と合築して医療連携を図るとともに、高齢者やそのご家族等を総合的にサポートするさまざまな拠点施設を設けまして、さまざまな高齢者サービスを行っております。

一方で、地球温暖化対策という大きなテーマに向けた取り組みなどにも早くから取り組んでいます。持続可能なまち、2050年までにCO<sub>2</sub>排出量ゼロを目指す「2050ゼロカーボンちよだ」の実現に向け、CO<sub>2</sub>排出量削減に向けた取り組み等です。「e.CYCLE

CHIYODA」, こちらの事業は, 地方都市等と連携をしまして, その地方都市等で発電された省エネ電力を区内事業者が利用できるような仕組みを構築していくというものです。その他にも, 2030年までに区有施設のゼロカーボンを目指し, 数値目標を立てて取り組んでいるところです。既に庁舎の照明のLED化等の事業などは実施し, 街路灯のLED化等も進めてまいります。

安全, 安心に向けたまちづくりへの取り組みも大変重要なものです。その一つが, こちらの「AKIBA安全・安心プロジェクト」でございます。先ほどご紹介したとおり, JR秋葉原駅周辺は, 電気街やサブカルチャー関連の店舗が多く並び, 国内外から観光客が訪れる世界的な観光都市です。ところが, 近年, 風営法に抵触するような営業形態の店舗, 悪質な客引きなどが増加しておりまして, その点, 周辺住民の生活環境の悪化が懸念されているところでもあり, 地域の方々やまちを訪れる人たちが安全, 安心して楽しめる環境を実現するために, 「チームAKIBA 安全・安心プロジェクト」というものを立ち上げ, 千代田区や地域の方々, 事業者, 警察, 鉄道会社などで協力し, 客引きパトロールの強化などを連携して行っています。皆さん, ご存じかと思いますが, 路上喫煙防止の取り組み, 路上喫煙で2,000円の過料をとるという取り組みは, 千代田区が全国の自治体に先駆けて行ったものです。区民の強い要望に迅速に動き, 区民の生活環境を守るために地域の方々, 団体等と協力しながら行った施策です。区内であまりたばこの喫煙者を見かけないというのは, そういった関係者の方々と連携して取り組んでいる結果だということをご理解いただけたらと思います。

少し長くなりましたが, まだまだたくさんご紹介できるのでございますが, これまで紹介してきたものは, 幅広く展開する私たち千代田区の行政活動のほんの一部であるというところでございます。

## 2 公務の魅力, やりがいについて

次に, 公務の魅力, やりがいについての話を進めてまいります。

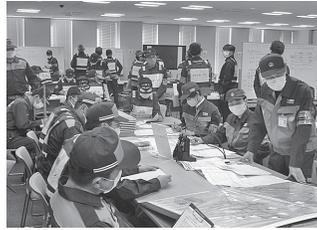
### (1) 「住民の生命を, 生活を守る」

まず, 公務のやりがいとして一番に挙げられるのは, 「住民の生命を, 生活を守る」ということだと思います。

皆さん, コロナ禍で各地域の保健所が, 昼夜, また土日もなく, コロナに感染された



新型コロナウイルス感染拡大時に、保健所は休みなく、区民に対応し続けた。



震災や自然災害の発生に備え、東京都、地域、消防、自衛隊、医師会、民間企業等と連携して有事を想定した体制づくり



災害等が発生しても、区民の生活を止めない。(写真は、令和5年夏に秋田県で発生した豪雨水害被害の救援に向かった際のもの)

方、そして濃厚接触となったそのご家族の方等に対し連絡をし、フォローしていたことをまだ覚えていらっしゃいますか。皆さんの中にも、コロナに感染して不安な気持ちでいっぱいの中、保健所の職員から優しく連絡をもらって安心した方も少なくないのではないかと思います。

コロナ禍では保健所だけではなく、例えば、区民が必要な医療を受けられるよう、また、高齢者が在宅で介護サービス事業者から必要なサービスを継続して受けられるよう、医療機関や介護サービス事業者を支援するなどの取り組みも行っていました。震災、風水害等が発生した時に、区民の生命や暮らしを守ることも私たちの使命でございます。そういった有事を想定し、日々、関係団体と協議をしたり、訓練をする等しているところです。

そういった有事の際にも、行政サービスを止めない、必要なサービスを区民に届ける、そういったことが私たち地方公共団体の使命であり、こういったものを常に背負って、住民の命を、生活を守っていくことは、一番に挙げられる公務のやりがい、魅力であると考えております。

## (2) 経歴等から振り返るやりがい

次に、私の経歴等から、やりがいについてのお話を少しさせていただきます。時間の関係で全て紹介できないので、皆さんに近い年齢の時に私が経験した職務、仕事について、少し昔話にはなりますけれども、いくつか紹介させていただきたいと思います。まず、私が入庁した時に最初に配属されたのは千代田区教育委員会事務局生涯学習振興課という部署でしたが、区民に対する講座、講習会等の開催、文化的な活動を行う学習グループの支援等といったものが職務でございました。当時、高齢化社会が

進んでいく中で、生涯の楽しみ、生きがいにできるような趣味を持つということ、あと、趣味は人と人との交流をつなげていくものだというので、生涯学習の重要性が言われていたと認識しています。その頃のエピソードを2つ紹介させていただきます。まず、私が初年度に担当した事業、『ハネムーン“楽習”』という少し変わった事業でございます。この事業、40歳以上の区民のご夫婦を対象とした教養講座で、夫婦間で趣味を楽しんだり、他のご夫婦と交流等を行い、自主グループ化につなげていくというような内容の事業でございました。この事業の初回は、北の丸公園で参加者一同が自己紹介等を行い、軽食を共にするというようなものでございましたが、上司の係長から最初に指示を受けた仕事が、その初回が開催される土曜日に出勤して、一緒に北の丸公園に行って花見の場所取りをするというものでした。この花見の場所取りが、私の役所人生の最初の仕事でした。事業開始の2～3時間前に北の丸公園にブルーシートを張って場所取りをしました。その事業では、手をつないで参加するご夫婦、ペアルックのご夫婦等、仲の良いご夫婦たちと一緒に1年間、昭和の歌を歌ったり、料理を作ったり、七宝焼き等の趣味の活動を行ったりしたのですが、区民の方々と直接接することで、年賀状の交換をしたりとか、まち中で会えば声を掛け合ったり、区民の方々との交流の場をもてた非常に良い機会だったのかなと考えております。2つ目は、「子ども体験教室」です。これは、区内の小中学生の子どもたちにキャンプ等の野外活動を体験させるというものでした。子どもたちとキャンプネームでお互いを呼び合って、一緒に八ヶ岳にテントを持って登ったり、夜通しで区の花小金井にある施設まで往復40キロを歩くといったチャレンジプログラムなどがありました。そのチャレンジプログラムでは、夜通しで子どもたちと一緒に歩くので、眠りながら歩く子どもたちの手を引きながら歩くといった貴重な経験をしました。私たち職員は選挙のたびに選挙事務で投票所に事務従事するようなこともあるのですが、その時に、当時子どもだった参加者が、「カミナリ、おひさしぶりです。」と当時のキャンプネームで声を掛けられて、「君たちこそ何してんのさ」というようなことで大きくたくましい大人になった当時の子どもたちとやりとりするようなことができるのも、職員でよかったなと実感できる機会の一つと考えています。2つ目の配属の話です。地域振興課保養施設係というところでは、区民向けの保養施設の管理運営の業務の担当をしておりました。区民の方々に低廉な料金で高いサービスをとということで、箱根千代田荘という最も区民の思い入れが深いとされる施設の改築の担当をさせていただきました。当時の上司からは日頃、「ホテルに負けない施設を造るぞ」ということを言われておりました。

なぜならば、当時、各区等で保養所の建設、建て替え等が続いていました。「A区の保養所はすごい。」と、まさに行政サービスの質を、保養施設のサービスで比較されるといった時期だったようにも思います。さまざまな他の自治体の保養施設を視察に行くと、どのような備品が入れられているか、また館内の案内サインはどうなっているのか、食事はどのような器に盛られているのか、サービスの質はどうかというふうなことの研究を進めまして、改築後の施設の運営をしてもらおう委託業者を決めたり、予定のスケジュールどおりに開設できるよう、開設前、開設後も何日も泊まり込んで準備等も行いました。その箱根千代田荘の改築で、私は備品、消耗品の調達担当として当時、1億5,000万円もの予算を預かり、備品等の選定、それらの購入に向けた契約準備、入札等で落札された事業者と綿密な搬入スケジュール等を立てまして、備品等の納入を進めていきました。さまざまな事業者と交流を持つ機会にもなりました。公共施設を建てるという長期プロジェクトにしっかり関わって、自分の役割を果たしたということは、自分の自信にもつながりました。そのがんばった甲斐等もあって、多くの区民の方々に「素晴らしい施設だ」と多くのお褒めの言葉を頂いたことや、「このような施設を使わせていただき、ありがとうございます」といった声もたくさん頂きました。毎月、予約に来られる区民の方が、私たち職員に「いつもありがとう」と、おいしいおはぎを持ってきてくれたりと、そういったエピソードなども思い出に残っています。

3番目の配属は、都市計画課都市計画係という部署でした。都市計画法等に基づく用途地域等の土地計画を周知、案内したり、区のまちの将来像を描いた千代田区都市計画マスタープランという行政計画の進捗管理を行うのが担当職務でした。これまでは事務の職員中心の職場だったのですが、この部署は、上司が建築職、土木職等の上司であったこともあり、大変楽しく仕事をさせていただいた記憶しかありません。

法律の勉強をしているとしても、都市計画とか用途地域と聞いて、ピンとくる方はそうはいないのではないかと思います。ですが、私たち職員は、人事異動で新たな部署に配属されたら、そこではその異動の日から区民等のお客さまに接するプロとして対応しなければいけません。昨日まで保養施設の管理の仕事をしていた私が、今度はデベロッパーや不動産業者の方をお客様とする仕事をする事となるわけです。都市計画法や建築基準法等の法令を一から学ばなければいけない、そういった状況になりましたが、当時、建築職の係長はじめ係内の先輩方に優しく教えていただき、少しずつですが、さまざまな問い合わせに対応できるようになりました。私たち職員は、異

動の時期、各職場に配属される職員がむしろいるのが当たり前なので、職場における研修体制、マニュアルが整備されています。意外となんとかなるものなのです。その都市計画課で担当した職務に、「ワンルームマンション規制」というものがありました。当時、千代田区では住民人口が少なかったこともあって、定住人口回復のために都市計画で、建築物を建てる時に住宅、住戸を造ってくれたら、容積率を、法律上、上限がある床面積を緩和しますという住宅誘導型の都市計画というものを進めておりました。ですが、このように進めている住宅誘導型の都市計画が、投資目的のワンルームマンションに利用されるというようなことが問題となっていました。もともと定住人口の回復を図るためのものなのでファミリー層が入居できるような住宅を誘導したかったのですが、定住がなかなか見込めない投資用のワンルームマンションがつくられれば、なかなか人口回復も実現できないことになります。また、こういったワンルームマンションは、自転車の違法駐輪とか、ごみ捨て場の管理等で地域からも問題視する声等が多数ありまして、早期の対応が課題とされておりました。そういった中で、地域の方々を集めて住民説明会を開催し、まちの将来像や課題を示しながら都市計画の手法を用いてワンルーム規制を行いました。上司の明確なリーダーシップのもとで、その時の課題に、地域からの要望に迅速に対応できた、これも良い経験だったなと思っております。ここでは、駅前開発が進む秋葉原において、秋葉原の魅力向上のための事業を行う株式会社を設立するという職務を担当しました。秋葉原が持続して魅力あるまちであり続けるというために、これには行政だけではなく、地域の方々と一緒に共同でまちの経営、地域経営を進めていかなければならないと。そこで、地域でまちの魅力向上のために事業を行う株式会社をつくっていこうということになりました。地域住民や地域の事業者の方々にお忙しい中、夜間に何度もお集まりいただいて、説明会をしたり、ワークショップで意見交換などを行いながら、新しい株式会社でどんな事業をさせようかという検討を進め、出資者を募り、株式会社を設立しました。先ほど『AKIBA安心プロジェクト』のご紹介をしましたが、この株式会社はそういった取り組みにも中心的に関わって、地域の清掃活動等の美観維持活動等、今なお、さまざまな事業を行っています。

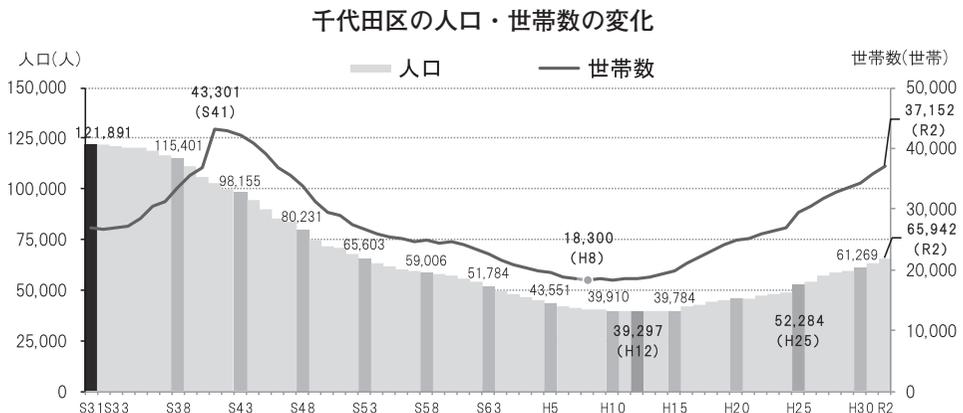
過去の私の配属先、3か所ほどの仕事内容を紹介させていただきましたが、区民教養講座でのお花見の場所取りから、まちづくりに関する株式会社の設立まで、幅広くさまざまな仕事に関わってきたということがお分かりいただけたのではないのでしょうか。このように人事異動でさまざまな仕事を体験でき、さまざまな人とつながりをも

って、自身のスキルアップにつなげられることは公務員の魅力の一つだと考えています。大きな自治体、例えば、都道府県であったり、政令指定都市などですと、局単位とか、福祉は福祉、教育は教育などと配属先もある程度限られるようなことがあると聞きますが、私たち千代田区ぐらいですと本当にさまざまな仕事を経験できる。私たち職員は自分たちの成長の場として、そういった人事異動を大変楽しみにしているのです。

### (3) 目標とするまちの姿を実現できる

次に、また魅力、やりがいということなのですが、私の経験としまして、「目標とするまちの姿を実現できる」ということについて、少しご説明させていただきます。

私が入庁時の区の人口っていうのは約3万9,000人ほど、定住人口回復は、私が入庁した時の最重要課題であったと思います。平成13年に策定した第3次基本構想では、千代田市を目指すということで、人口5万人回復を目標に掲げていました。この目標に向けて、さまざまな取り組みを行ってきたというところですが、平成12年に3万9,000人、最も少ない人口だったのですが、これが今、一番、棒グラフの右端、6万5,940人、7万人近くまで回復し続けてきております。これは、基本構想に描くまちの将来像をイメージしながら、定住人口回復に向けて、子育て、地域振興、保健福祉、ま



資料：千代田区史、住民基本台帳統計資料（各年1月1日現在）

（注）昭和24～27年の数値は、食糧管理法に基づく「食糧配給台帳の登録等に関する規則」により登録された人口、昭和28～42年の数値は住民登録人口、平成25年より数値に外国人住民を含む

\*一時、4万人をきった人口も、7万人弱にまで回復。

\*定住人口回復に向けた、子育て、地域振興、保健福祉、まちづくり等の施策の効果が結実したもの。

ちづくり等、全ての分野で連携をして進めてきた取り組みが相まって結実したものではないかと考えています。もちろん、近年の都心回帰の状況による影響も大きいでしょうが、私はそのように考えています。このように、基本構想に掲げた目標に向かって、毎年、実施事業を検討し、予算化し、進めていく、そういった進捗管理をしていくことで、こういった成果、まちが変化していく姿を、様子を目の当たりにできる。入庁当時は区内にあまりなかった生鮮品、食料品を取り扱うお店も今はたくさん増えて、まちが住みやすくなってきています。そういった結果、まちが変わっているという成果を実感できることも大きなやりがいの一つではないかと思っています。

#### (4) まとめ(職員の声を含む。)

公務の魅力としまして、こういった先ほど申し上げたような内容、住民の命を、生活を守ると。行政の範囲は幅広く、人事異動により多様な職務を経験できると。誰に対しても、公平・公正にサービスを提供できる。住民の目線で職務を行える。目指すまちづくりを、変わっていくまちの姿を見続けることができると。勤務条件等が安定しており、福利厚生も充実しているということもあるかと思えます。

##### 公務の魅力まとめ(私見)

- ポイント1** 住民の命を、生活を守るという使命を負っている。
- ポイント2** 行政の範囲は幅広く、人事異動により多様な職務を経験することが可能。その都度、新しい知識、経験、人脈等を得ることができ、自身の成長につなげることができる。
- ポイント3** 誰に対しても、公平・公正にサービスを提供することができる。
- ポイント4** 住民の目線に立って、職務を行うことによって、住民からの信頼を得たり、住民から直接感謝の気持ちを伝えられることが、モチベーションの向上につながる。
- ポイント5** 「めざすまちの将来像」を掲げて計画的に行政運営していくため、まちの変わっていく姿を見続けることができる。
- ポイント6** 勤務条件面が安定しており、福利厚生も充実している。

公務のやりがいについて、実際に区役所の中で働く職員たちの生の声を聞いてみました。次のとおりです。

##### 【住民や事業者との関係構築】

- (商工振興)地域の商店街と二人三脚でイベント立案やまちの活性化に携わっていた。

いまでもまちを歩くと、商店の方から声を掛けられることがあり、数年たっても顔を覚えてくれているのは、非常にうれしく思う。

- (高齢者福祉) 家族の介護や自身のことで困っている方を、必要な高齢者サービスに繋げられた。
- (環境政策) 区民向けの省エネ助成制度で区民や事業者から電力使用量の実績報告をいただく際、「省エネだけでなく電気代の節約にも繋がった。」と喜ぶ区民の方を見て、環境や生活に貢献する公務ならではのやりがいを感じた。
- 以前関わりのあった区民の方と庁内でお会いした際に「(事業をやってくれて) 本当にありがとう」という感謝の言葉をいただき、(千代田区の職員としての) 帰属意識が高まった。
- 区民にとって身近な存在として、思いを形にすることが想像する以上に楽しく魅力的な仕事だと思う。
- 区民の方から感謝されたり自分の成長を実感したりと、根拠のある自己肯定感が自信に繋がるので、1人の人間として大きく成長したいと思う方だけでなく、自分に自信がなく将来への不安を感じてしまう方等にもぴったりの職業だと思う。

#### 【非営利性】

- 民間では利益優先となり、必ずしもその方にあったサービスを提供できない場合があるが、公務員の場合はその方に合うサービスを提供することができる。
- 営利や競争に囚われず、純粋な気持ちで人や社会に貢献できる。
- 利益追求が目的ではないので、「不本意」な業務(自分が良いと思わないものを消費者に売りつける等)は発生しないこと。
- 利益追求ではないので、相手(区民)を切り捨てることがない。

#### 【職務環境】

- 社会の変化に臨機応変に適應することが求められるため、若手職員の意見が反映されやすいと感じる。
- 仕事の効率化、業務改善等について、若手職員が考えたことであっても、意見が通る。(行動に直結できる環境)
- 意外と自分に裁量があるので、自分で考えて、よりよいものを目指せる。
- 休暇・休業制度も充実し、子育てに対する周囲の理解もある。自分の知識経験を生かしながら、やりたい仕事を全力で進め、自己実現を図る一方で、かけがえのない家族との時間も大事にすることができる。
- 休日や収入が安定している。原則として週休2日で休日も休み。
- 民間企業の場合、会社の経営状態によって勤務条件が変動することがあるが、公務

員はそれがないため安定している。

### 3 千代田区における人材育成

次に、「千代田区における人材育成」に話を進めてまいります。千代田区では、「人材育成基本方針」というものを策定しておりまして、それに沿って人材育成を進めております。「組織は人なり」といいますが、組織としてさまざまな課題に柔軟に対応していくということ、税等の収入に限られる中で、行政自体を大きくせずに、効率化した運営をしていくということ等に対応していくためには、職員の育成と能力向上が必要不可欠です。この中で、人材育成上の課題として、6点ほど挙げさせていただいています。まず、「新規採用職員等の育成」、近年、退職者が増えています。高齢の退職者も多いのですが、人材の流動化ということで若い職員の退職も増えています。近年、採用を増やしていることもあり、職務経験10年以内の職員が半数を占める中で、新規職員等の育成がまずあります。次に、「ベテラン職員の活躍、知識、経験の継承」もあります。「管理監督職となる職員の育成」も重要で、その意識啓発であるとか、女性管理職を増やしていくためにも、仕事、家庭を両立できるような環境整備等を行っていく必要等もあります。DXと先ほど言っていましたけれども、「専門的な人材の確保、育成」、それから、人材育成については、どんなによい研修を行っても、自分自身が自らを高めたいという意欲がないと効果はあがらないので、「職員の自発性を支援する仕組みの充実」、あとは、お互いが気持ち良く仕事ができる環境、風通しの良い風土づくり、「人を育てる良好な環境づくり」を掲げています。

そういった課題があって、こういった職員像を目指すのかというところで、「① 区民目線で考え、行動する職員」、「② 研さんし、成長し続けるプロフェッショナルな職員」、「③ 多様なニーズや時代の変化に対応し、挑戦する職員」、「④ チームワークを大切にし、後進の育成に取り組む職員」、「⑤ 高い倫理観を備え、確固たる信念で使命・責任を全うする職員」の5つを掲げて、さまざまな人材育成の施策を行っているところでございます。

その施策がこちらになりまして、「人材の確保」、「職場環境の整備」、「適正配置・処遇」、「育成支援」、これら4つの視点を要素としまして、それぞれが有機的に連携された施策を実施していくということです。研修というと、どうしても皆さん、集合して



講師が語り、聴くという座学のイメージの講座，講習会みたいなことがイメージされると思うのですが，行政における一番の人材育成の場となるのは，先ほど申し上げたようなOJT，各職場で必要なことを一つひとつ覚えていくというふうなことです。千代田区においては，職員が安心して働いて，環境に慣れて，持てる力を発揮できるように，1年目の新規採用の職員にすごく力を入れて研修プログラムなどを組んでいるところです。また，職場でハラスメントがあつたりしてはいけませんので，そういったハラスメントや人権意識を啓発するような研修等の取り組みを継続して行っております。

では，千代田区ではどんな人材を求めているのかということなんですけども，この人材育成基本方針の中には「時代や区民ニーズに即した行政サービスの安定的な提供を実現するため，「目指すべき職員像」と方向性を同じくする主体性，積極性，千代

田区への愛着，強い志望動機等を持った職員を採用していきます」というようなことを記載しています。

この千代田区人材育成基本方針，区のホームページで検索すればすぐ出てきますので，そういったところで，千代田区を受験してみたいなという方は，ご確認いただけたらと思います。先ほど申し上げた内容は，今の職員だけでなく，新しく区を目指していただく学生の方にも共通するところだと思います。ですが，こういった要件を全て兼ね備えるということが難しいと思いますので，学生時代にいろいろ研さんを積み重ねて，「私，このようなことをやっていました。」ということをしつかりアピールしていただけたらと思います。

#### 4 公務員，特別区の職員になるには

次に，最後に，区の職員にどうやったらなれるのかというところからです。まず，公務員にどうなったらなれるのかというところがございますけれども，公務員は，大きく国家公務員と地方公務員の2つに分かれます。国家公務員，皆さん，ご存じかと思いますが，中央官庁やその出先機関で働く公務員という区分。地方公務員というのは，都道府県庁，それから市区役所，町役場等，これらの出先機関で働く公務員のことをいいます。どちらの公務員になるにも，公務員試験に合格することが必要とされており，その受験準備が必要だということがございます。こういったところが少し，民間に就職するのに比べて準備が大変だと思うところだと思います。

次に，全部，私見で，これまでの話の繰り返しにはなりますが，場合場合に分けて，公務員に就職することのメリットをまとめさせていただきました。まず，「公務員に就職することのメリット」についてですが，「ジョブローテーション（人事異動）により，広範な行政活動を広く経験することができ，専門性や多角的な視野が身についていくこと」があります。「自分の働き，頑張りが国や自治体のため，国民，住民のためになることを実感できる」というやりがいがあること，「住民のために公平に仕事ができる」，「処遇面や継続勤務性等において安定している。」という点も挙げられると思います。離職率は近年高くなっているとはいっても，民間に比べるとかなり低いのではないかと考えております。私の大学時代の知友人でも，民間に就職しても転職をしている人，複数繰り返している者は結構います。

次に，「基礎自治体（区市町村）に就職できるメリット」についてです。住民と親しく

なったり、住民から直接、お礼の言葉をいただく機会がたくさんあって、モチベーションアップにつながるということがあります。都道府県のような広域行政よりは、私たちのような基礎自治体のほうが住民との距離が近いと思います。これまで話したように、住民、団体、企業等とのつながりが人事異動等で積み重なって、自分の財産になっていくということがありますし、目標に掲げた将来のまちの姿が形づくられている様を長くいれば実感していくことができるようなこともあると思います。

次に、「特別区に就職することのメリット」についてですが、こちらは、住民や事業者が多い故の財政基盤の強さ等から、新たなチャレンジ、先進的な取り組みを行えるということがあるのではないかと考えます。それから、特別区合同の研修が実施されるなど、他区の職員と交流する機会ってというのが少なくないです。特別区としてのまとまったスケールメリットはいろんなところであると思います。これは受験者に対する一つの参考情報ではありますが、職員採用試験を特別区全体で実施することから、他の基礎自治体が個別に行うものと比べて、採用予定者数が圧倒的に多いのではないかと考えております。合格しやすいとは言いませんけれども、そういったことを受験する際に参考にいただいてもよいのではないかと思います。

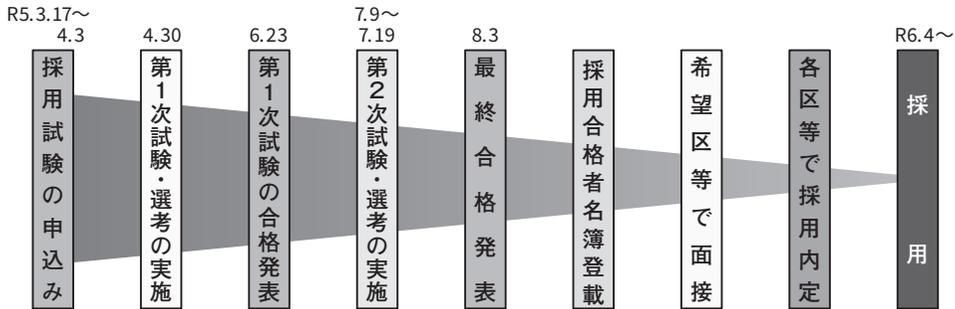
最後に、「千代田区に就職することのメリット」です。これまでのものも全て含みながらというところでご説明ですが、区民が7万人弱であり、一人ひとりの住民がより近いということをございまして、これぐらいの住民規模の下で、きめ細やかなサービスが実施可能ということがあります。住民の要望に対してアクションを起こしやすい、住民規模が多いと予算面に躊躇して実施しづらいようなものもありますが、フットワーク軽くできる部分があると思います。職員数も1,200人ほどでございまして、その中で、事務なら事務、専門職なら専門職ということで、配属される部署も限られてきますので、ほぼ、長くいればいるほど、知っている職員が多くなります。一度、仕事を一緒にした職員を頼って、「教えて」「お願いします。」みたいなことがしやすいというようなこともメリットだと考えます。また、これまでお話したとおり、区が12平方キロ程度で地下鉄等の交通機関が発達しているのです。どの部署、庁外施設に異動したとしても通勤時間はそう変わらないと。広く大きな自治体になれば、人事異動で引越しが必要となるようなこともあるかもしれません。そこまででなくても、例えば、異動によって通勤時間が30分、1時間増えたということもあるかもしれません。千代田区ではこのような不安はほとんどありません。あと、若手が非常に割合が多くて、1年目、2年目から活躍できる。悪く言うと、1年目、2年目から責任のある

## 特別区（千代田区）の職員になるには？

特別区（千代田区）の職員になるためには、特別区職員採用試験に最終合格し、希望する区・組合等において、採用の内定を得ることが必要。

（参考：令和5年度のI類採用試験（事務）の採用スケジュール）

R6度以降の試験スケジュールを必ず確認してください。

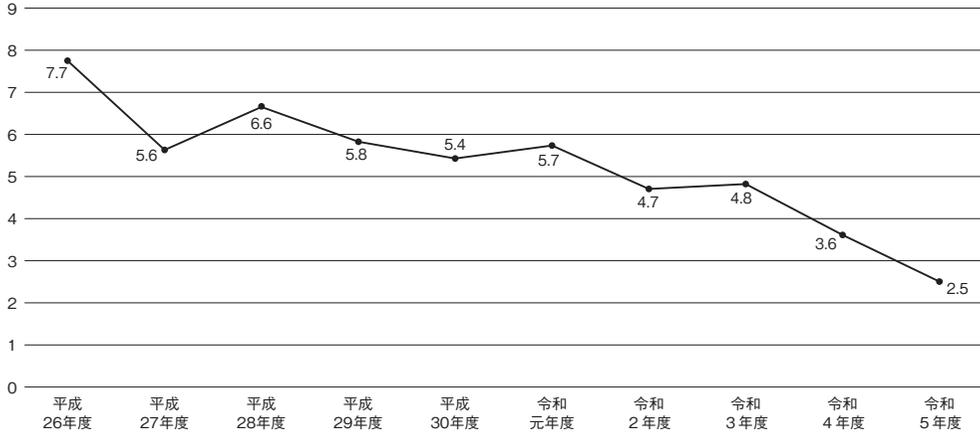


仕事を任されるというところではありますが、そういった機会が自分の成長につながっていくのではないかと思います。他にも、新人の1年目の職員、特に、早く仕事に定着して、自分の力を発揮できるようにということで、職場に慣れていくための研修に力を入れていただいていること等も考えています。

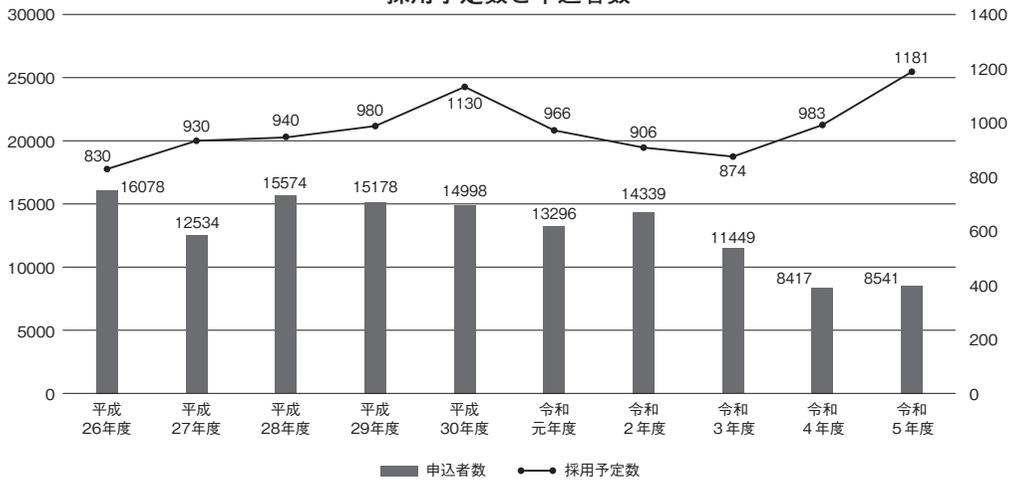
次に、「特別区の職員になるには」ということの話に進めます。これから説明するのは、昨年（令和5年度試験）のI類採用試験のものでございます。受験を検討される方は必ず特別区人事委員会のホームページ等で確認いただけたらと思います。

例年のスケジュールですと、およそ3月の中旬ぐらいに、試験の告示が行われ、4月からのスケジュールで言うと、まず募集期間がありまして、採用試験の申し込みをします。4月末には1次試験・選考ということで、記述式、論述とかの試験があります。これらの結果により、まず第1試験の合格者が6月中旬頃に発表がなされます。その合格者に対しては、7月の初旬ごろに、特別区としての2次試験、これが採用面接なのですが、これが実施されて、その内容も含めて最終合格者が8月の初め頃に発表になります。ここで終わりではなく、特別区におきましては、最終合格者の方が希望する各区のほうで再び面接を実施します。そこで採用内定を受けた方がその区に翌年の4月に就職するということになります。中には、この最初の区の面接において採用の内定を得られない方もいらっしゃるようですが、別の区で面接を受けられる場合もあるようです。重ねて申しますが、これから試験を受験する方は必ず特別区人事委員会のホームページをご確認ください。

特別区Ⅰ類職員採用試験実施状況(事務職)  
合格倍率



特別区Ⅰ類職員採用試験実施状況(事務職)  
採用予定数と申込者数



次に勤務条件、給与面についてです。大卒程度の初任給ですが、地域勤務手当を含めまして、およそ23万5,400円(令和6年度募集要項上の金額)です。原則として土、日、祝日が休日でございます。1週間当たり38時間45分、朝8時半が始まりで17時15分が終わるといのが特別区の通常勤務です。年休は年間20日ということでございます。初年度は少し取り扱いが違ったりします。その他にも、さまざまな育児支援の休暇等があったりとか、介護に関する休暇等もあり、福利厚生は充実しています。

次に採用状況についてですが、この中で見ていただきたいのは、令和5年度の採用予定数1,181という数字です。最近、採用者数が非常に増えています。それは、行政の分野がどんどんサービスが必要となってきたこと等があります。そういったことで採用予定数が増えていることが影響しまして、こちらはI類の事務職の最終合格倍率ということですが、10年ほど前は約8倍ほどあった倍率が、今は約2.5倍ほどになっています。非常に合格しやすくなっていることがわかりいただけると思います。

実際、私が受験したときは、おそらく20倍を超えるぐらいの倍率だったと思うのですが、これは景気にもよるところで、不景気になればなるほど、公務員人気は高まるのですが今はこのような状況です。公務員試験の勉強は大変ですが、公務員になりたい人には今がまさに絶好の時期といえるのではないかと思います。試験勉強は確かに広範囲で大変ですが、私は、長い人生において多くの時間を費やす職業の選択は慎重に行うべきではないかと思います。本日、私が申し上げたようなこと、公務員の仕事、やりがいなどを見て、公務員に少しでも関心を持っていただいた方、公務員をぜひ目指していただけたら、皆さんと一緒に仕事をしたいと考えておりますので、ぜひご検討いただけたらと思います。

お時間の関係もあって、途中、省略させていただきましたが、これで本日の私からの話は終了とさせていただきます。ご清聴ありがとうございます。